

作成日：2016 年 09 月 16 日

改訂日：2026 年 01 月 06 日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称	マリノール 450cps
品番	10811、10812
供給者の会社名／部署	武藤化学株式会社／學術部
住所	東京都文京区本郷 2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3815-4832
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分 3

健康に対する有害性

急性毒性(吸入：蒸気) : 区分 4

皮膚腐食性/刺激性 : 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 2

特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分 1(呼吸器)
区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復暴露) : 区分 1(神経系、呼吸器)

誤えん有害性 : 区分 1

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分 2

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分 3

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報 引火性の液体および蒸気
吸入すると有害

皮膚刺激
強い眼刺激
臓器の障害(呼吸器)
眠気またはめまいのおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害(神経系、呼吸器)
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に毒性
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書類(SDS や技術資料等)を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。
容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置くこと。
容器を接地すること/アースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等と使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する措置を講ずること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。吸入を避けること。
取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
呼吸用保護具を着用すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

応急処置

飲み込んだ場合：直ちに医師の診断/手当てを受けること。また、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を多量の水(流水/シャワー)と石けん(鹼)で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当を受けること。
吸入した場合：気分が悪くなった時は空気の新鮮な場所に移り呼吸しやすい姿勢で休息させること。また必要に応じ医師の診断/手当てを受けること。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。気分

	が悪いときは医師に連絡し、診断/手当てを受けること。
	漏出した場合：漏出物を回収すること（又は砂、布等で拭き取り不燃性容器、水を張った容器に回収すること）。
	火災の場合：炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いて消火すること。
保管	涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。
	容器を密閉しておくこと。
廃棄	内容物や容器は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。
他の危険有害性	情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ; 混合物

化学名又は一般名 ; アクリル樹脂

成分名	含有量 (wt%)	官報公示整理番号	CAS 番号
アクリルポリマー	残	非公開	非公開
m-キシレン	60-70%	3-3、3-60	108-38-3

4. 応急処置

吸入した場合

直ちに新鮮な空気の場所へ移動させる。毛布等で保温し安静を保ち、呼吸しやすい体勢で休息させる。
医師の診断または手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

速やかに多量の水と石けん(鹼)で洗い流す。
汚染され衣服、靴などは速やかに脱ぎ捨てる。
痛み、痒み等、皮膚に異常が生じた場合には医師の診断を受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は取り外し、その後も洗浄を続ける。直ちに医師の診断/手当てを受ける。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせない。直ちに医師に連絡する。嘔吐が自然に起こった場合、気管に入らないように身体を傾ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

皮膚の痛み、発赤、重度の葉傷、眼の痛み、かすみ眼、気道、肺の痛み、灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、胃、痙攣、腹痛、嘔吐、頭痛、意識喪失

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、適切な保護具を着用して行う。

医師に対する特別な注意事項

医師の手当てを受ける場合は、本SDSを提示する等、本製品に関する情報を医師に提供する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

炭酸ガス（二酸化炭素）、泡、粉末、乾燥砂

使ってはならない消火剤

水（棒状注水）

火災時の特有の危険有害性

燃焼したとき、多量の黒煙を発生する。燃焼ガスは一酸化炭素を含む。

特有の消火方法

初期の火災には粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災には泡消火器で空気を遮断し、一気に消火する。

消火作業は可能な限り風上から行う。漏出した物質や消火用水等が、河川等に排出されないように注意する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業には状況に応じて適切な保護具を着用する。

当該物の吸入や直接接触を避ける。風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏れ出た周辺のロープを張り、立入禁止措置をすること。作業の際は、適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」項参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。風上から消火する。

環境に対する注意事項

土壌に浸透させてはならない。下水、河川、排水溝等に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏れが少量の場合は、乾燥した土砂に吸収させる。漏れが多量の場合は、土砂等で流れを止め、ビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら、安全な場所に回収する。回収後、汚染された場所は、十分に洗浄する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに撤去する。閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

適切な保護具を確実に着用する（「8. ばく露防止及び保護措置」項参照）。付近での火気の使用を禁止し、静電気対策を行う。

局所排気・全体換気

適切な排気換気装置を使用する（「8. ばく露防止及び保護措置」項参照）。容器は常に密閉し、通気性の良い場所又は局所排気、全体換気装置の付いた所で行う。

安全取扱い注意事項

皮膚、眼または衣類との接触を避ける。

周辺での火気、火花、アークを発生するもの又は高温点火源等を使用

		しない。ミスト、蒸気、粉じんを吸入しない。 消防法等の関連法規に準拠して作業する。
	接触回避	「10. 安定性及び反応性」項参照。
	衛生対策	取扱後はよく手洗い、うがいをする。
保管	安全な保管条件	容器は確実に密閉し、保管場所は火気厳禁とする。直射日光及び高温を避け、冷暗所へ保管する。危険物施設で保管し、施錠して管理する。 有機過酸化物、酸化性物質、還元性物質、アルカリ性物質から離して保管する。
	安全な容器包装材料	本製品にて使用している容器を用いるのが最も好ましいが、一時的に別容器に移す場合は、消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 容器は、耐食性容器を用い、破損・腐食・割れ等のないものを使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名 m-キシレン

管理濃度 50ppm

濃度基準値

八時間濃度基準値 -

短時間濃度基準値 -

許容濃度

日本産衛学会 50ppm(217mg/m³) (2001)

ACGIH 100ppm/150ppm(1992)

設備対策 設備/装置全体を密閉化するか、局所排気装置を設置する。防爆型の電気機器、照明機器、工具を使用する。静電気放電に対する予防措置を講ずる。取扱い場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設けその位置を明示する。

保護具	呼吸用保護具	防毒マスク(呼吸缶の種類は有機ガス用) 濃度が高い場合は送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器等の吸気式保護具を着用する。
	手の保護具	適切な防護手袋(不浸透性)を着用する。
	眼、顔面の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。側面シールドの付いた安全眼鏡(又はゴーグル)を着用する。
	皮膚及び身体の保護具	不浸透性保護具(防護長靴、防護服等)を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

物理状態 : 液体

色 : 淡色

臭い : 溶剤臭

融点/凝固点	: -47.4℃	: m-キシレン
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 139.07℃	: m-キシレン
可燃性	: データなし	
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 1.1-7.0vol%	: m-キシレン
引火点	: 27℃(密閉式)	: m-キシレン
自然発火点	: 527℃	: m-キシレン
分解温度	: データなし	
pH	: データなし	
動粘性率	: データなし	
溶解度	: 175mg/L(25℃)	: m-キシレン
n-オクタール/水分配係数(log 値)	: 3.2	: m-キシレン
蒸気圧	: 0.8kPa(20℃)	: m-キシレン
密度及び/又は相対密度	: データなし	
相対ガス密度	: 3.7	: m-キシレン
粒子特性	: データなし	
その他データ	: データなし	

10. 安定性及び反応性

反応性	情報無し
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	
可燃性:	熱、光の照射、また過酸化物や強酸化剤、強還元剤、強アルカリとの接触により重合反応を起こし発熱する。 引火点以上に加熱した場合、着火源があれば燃焼する。
発火性:	自然発火性についてデータなし。水との反応性なし。
酸化性:	空気と接触すると酸化することがある。
避けるべき条件	高温、加熱、強い光（直射日光、紫外線ランプ等）
混触危険物質	過酸化物、強酸化剤、強還元剤、酸、アルカリ
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、その他不明（データなし）

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	
【アクリルポリマー】	データなし。
【m-キシレン】(ラット) LD50(mg/kg)	4320
急性毒性(経皮)	
【アクリルポリマー】	データなし。
【m-キシレン】(ラビットまたはラット) LD50(mg/kg)	3228
急性毒性(吸入:ガス)	

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 データなし。

急性毒性(吸入：蒸気)

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 (ラット) LC50 (ppm) 7329

急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 データなし。

皮膚腐食性/刺激性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 区分 2

呼吸器感作性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 分類できない。

皮膚感作性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 分類できない。

生殖細胞変異原性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 分類できない。

発がん性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 分類できない。

生殖毒性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 分類できない。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 区分 1 (呼吸器)、区分 3 (麻酔作用)。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 区分 1 (神経系、呼吸器)

誤えん有害性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 区分 1。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 (甲殻類)EC50(48hr) 2.42 mg/L (オオミジンコ、48 時間 EC50) (環境庁生態影響試験, 2000、環境省リスク評価第 10 巻, 2012)

水生環境有害性 長期(慢性)

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 急速分解性あり (BOD による分解度: 100%の微生物による分解度試験, 1998)、甲殻類 (オオミジンコ) の 21 日間 NOEC=0.407mg/L (環境庁生態影響試験, 2000、NITE 初期リスク評価書, 2005、環境省リスク評価第 10 巻, 2012)

残留性・分解性

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 良分解性。

生体蓄積性

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 データなし。

土壌中の移動性

【アクリルポリマー】 データなし。

【m-キシレン】 データなし。

オゾン層への有害性

【アクリルポリマー】 分類できない。

【m-キシレン】 分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

廃棄する時は、内容物を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

ヒト健康、安全及び環境に配慮し、空き容器／包装等をリサイクルする事が望ましい。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)

国連番号

1866

品名(国連輸送名)	RESIN SOLUTION flammable (樹脂液)
国連分類	3
副次危険	-
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
IMDG(海上)	
国連番号	1866
品名(国連輸送名)	RESIN SOLUTION flammable (樹脂液)
国連分類	3
副次危険	-
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	該当
IATA(航空)	
国連番号	1866
品名(国連輸送名)	RESIN SOLUTION flammable (樹脂液)
国連分類	3
副次危険	-
容器等級	III
環境有害性	非該当
国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	消防法および道路交通法の規定に従う。
その他(一般的)注意	化学品を扱う場合の一般的な注意として、輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
特別安全対策	「7. 取扱い及び保管上の注意」の記載に従うこと。
緊急時応急措置指針番号	128 引火性液体 (非極性/水不溶)

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条)

「キシレン-対象となる範囲(重量%) ≥ 0.3 」

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2)

「キシレン-対象となる範囲(重量%) ≥ 0.1 」
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質(規則第 594 条の 2)
「m-キシレン-裾切値(重量%) : 1」(皮膚吸収性有害物質)
危険物・引火性の物
有機溶剤等(有機溶剤中毒予防規則)
「キシレン : 第二種有機溶剤等」
作業環境評価基準
「キシレン : 管理濃度-50ppm」
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)
第一種指定化学物質(管理番号 : 80)「キシレン」
毒物及び劇物取締法
非該当
化審法
優先評価化学物質「キシレン」
消防法
第 4 類 引火性液体 第二石油類 非水溶性液体
大気汚染防止法
有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中環審第 9 次答申(別表 1)の 43)「キシレン」
揮発性有機化合物(VOC)(法第 2 条第 4 項)「キシレン」
水質汚濁防止法
指定物質(政令第 3 条の 3 第 28 号)「キシレン」
海洋汚染防止法
有害液体物質(Y 類物質)(施行令別表第 1)「キシレン」
船舶安全法
引火性液体類(危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
航空法
引火性液体(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)
労働基準法
疾病化学物質(法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号)「キシレン」
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
特別管理産業廃棄物(法第 2 条第 5 項、施行令第 2 条の 4)

16. その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版

安衛法化学物質

産業中毒便覧(増補版)

化学物質安全性データブック

公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)

化学物質の危険・有害性便覧

GHS 分類結果データベース

GHS モデル MSDS 情報

化学工業日報社

医歯薬出版

オーム社

三共出版

労働省安全衛生部監修

nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。